

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	建物火災現場で放水活動中に、落下してきた金属製の看板が直撃し負傷した。
3. 体験した事例の中心的要素	木工品製作所の建物火災（全焼）において、単独で路上放水活動中、火勢制圧のため放水位置を前進させた時に、2 階部分の外壁（モルタル）に取り付けられていた金属製の看板が落下し腰部を直撃して負傷した。
4. 体験した事例の原因・理由	単独で放水活動したこと自体が不安全行動であるのに加え、モルタル外壁に取り付けられていた看板の存在は認識していたが、火災の進展状況から落下危険を予測できず、不用意に放水位置を前進したことが原因であり、認知心理学の視点からヒューマンエラーを分類した場合に用いられる「媒介エラー」（判断・決定ミス）と言える

【体験した事例の直接的な原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。行動の実行に問題があった。
------------------	---------------------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 19 年 3 月 20 日	午後 2 時頃
2. 発生した当時の天候	晴	
3. 発生した活動現場	屋外：火災建物の正面玄関前	
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	飛来・落下ぶつにぶつかる、	
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動中期、 [木造建物]	
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	放水活動、	
9. 同様の体験は、これまでにどの 程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。	

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[48]歳、勤続年数[27]年、現場経験年数[27]年、階級[消防副士長]、同様の活動 [初めて]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	救助工作車の機関員として出動	5名乗車
経過2	A	現場到着	
経過3	A	要救助者有りの情報により、内部進入の準備	
経過4	A	他隊からホース延長、建物西面（右側面）で放水活動	火勢がしれつのため内部進入不能
経過5	A	放水部署を建物北面（正面）に移動し、放水活動中受傷	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

【救助隊での取り組み】

- 1 安全管理（ヒューマンエラーと不安全行動について等）の再教育
- 2 確認呼称、指差確認等の励行
- 3 潜在的危険因子の予測及び喚呼を習慣化する。
- 4 冷静な判断・行動の心がけと自問自答を習慣化する。

○装備・資機材の対策について

【署所での取り組み】

- 1 無線機、トランシーバー、拡声器等の有効活用
- 2 無反動ノズル及び 50mm ホースの有効活用
- 3 個人装備の維持管理及び現場環境に合わせた完全着装の徹底

○活動環境の対策について

【救助隊での取り組み】

- 1 災害現場における単独行動をの禁止
- 2 ペア行動における相乗効果の発揮
- 3 環境の変遷に対する回避行動の事前決定

○指揮・情報伝達の対策について

【署所での取り組み】

- 1 各級指揮者に対する安全担当面の早期決定
- 2 活動危険因子に対する情報共有の徹底
- 3 活動統制の徹底